

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ボルト・ソリッド	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.560	△RG	0.047	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ボルト・ソリッド

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

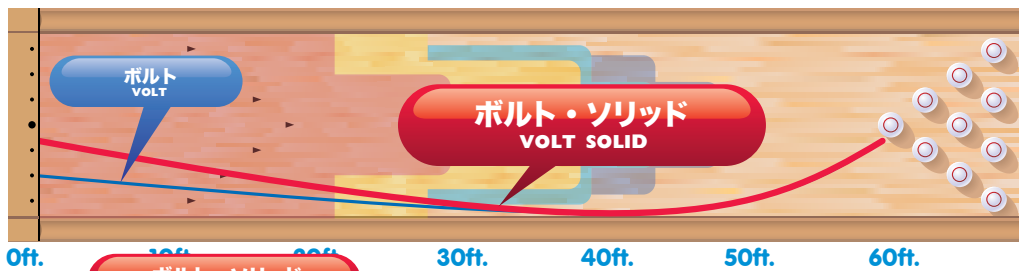
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：ボルト

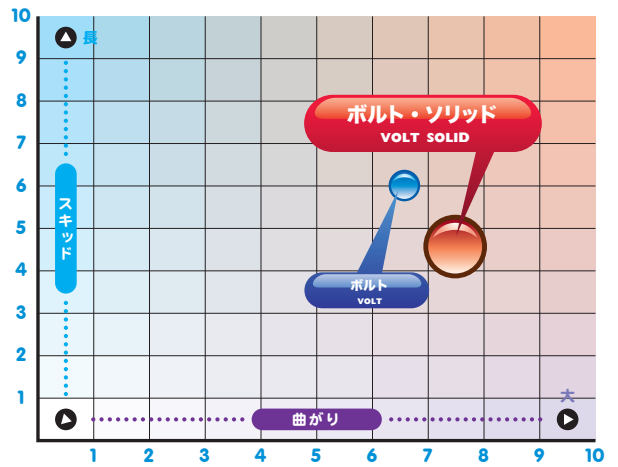
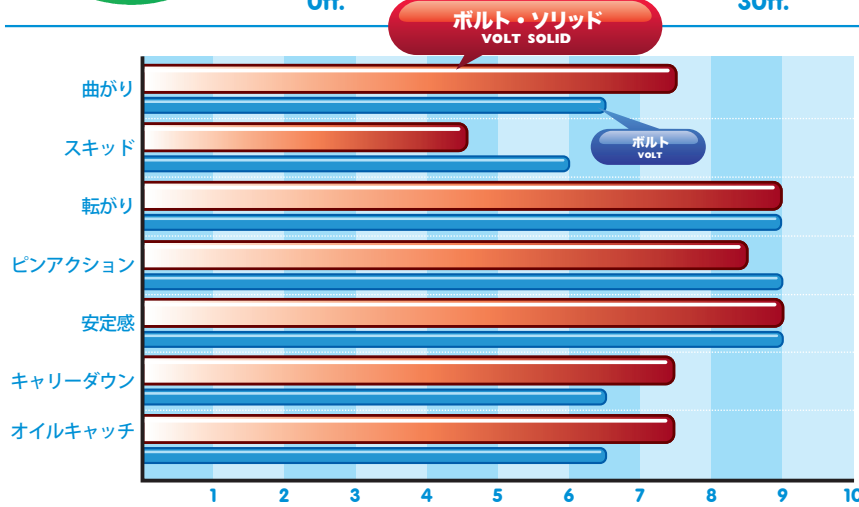
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

先に発売されたVOLTはEONで発表されたOlloid Symmetricコアの下部にウエイトブロックを追加することで、慣性を上げて作られたCharged Core にS72Pearlカバーを合わせ、Medium以下のコンディションで柔らかい曲がりと絡みつくような柔らかいピンキャリアが特徴でした。派手さはありませんが、やや角度が足りないと思われるポケットヒットも絡みつくピンキャリアが多くみられることで、後半必要なボールとしてプロのみならず多くの方にレポートリーの一つとして加えて頂いています。今回のVOLT SOLIDはネーミングにある通りSolid素材のVOLTで、Pearl素材の特徴を前面に出した初代VOLTとは性能も領域も全く違ってきます。

S72PearlがS72Solidに変わることによって表面仕上げの加工の違いもありますが、正直PearlとSolidの差で「これほど違うか」というのが第一印象です。S72PearlのVOLTは走り優先で、かなりオイルが薄くなってきてから勝負できる性能でした。

それにピンキャリアの絶大な恩恵がある分、初代VOLTの良さで「突出した要素」があった上でのレポートリー入閣でした。それがSolidバージョンになったことでキャッチは上がり領域が上になったことで違うボールとラインナップが重なってきたのも事実です。しかし全体的なバランス、特にラインナップにおける様々な役割やコンディション攻略におけるボールチョイスを考えると、私はVOLT SOLIDの入閣もありだと思えます。実用性のある読みやすい曲がりや変に曲がったり曲がらなかったりの挙動の少なさ、やや重厚感のあるピンキャリアまでを考えると、「点数にできる」ことに直視すると扱いやすさと実用性のある曲がりのボールはそう多くはありません。Neon Greenという日本にはあまり馴染みがない配色だと思えますが、好みの配色という概念を外しパフォーマンスを直視すれば高い仕上がります。

特記事項

Midのプレーキ感と強いトルクを感じる曲がりや、ピンヒットまで減速することなく動き続けます。コントロールしやすく実用性の高さが伺える仕上がります。